

第3回京丹後市図書館協議会 会議録

(京丹後市都市拠点公共施設整備に係る合同会議として開催)

- 1 会議名 京丹後市都市拠点公共施設整備に係る合同会議
- 2 構成会議体 京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議
京丹後市図書館協議会
京丹後市こども未来まちづくり審議会
- 3 開催日時 令和7年9月25日(木) 午後7時00分～午後9時00分
- 4 開催場所 峰山総合福祉センター コミュニティホール
- 5 出席者

(1) 委員

<京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議>

藤井美枝子、山添博史、今井みどり、志水美咲、山副祐子(兼務)、田中智子、
松岡豊美(兼務)、大庭哲治(リモート参加)、山本隆明、欠席1人(川口勝彦)

<京丹後市図書館協議会>

東恵美子、木本敦子、中村智彦、増田明子、松岡 豊美(兼務)、味田佳子(兼務)、
小森政志、欠席3人(大下倉美穂、中村隆倫、吉岡美保)

<京丹後市こども未来まちづくり審議会>

田中道夫、山副祐子(兼務)、岩渕祐子、味田佳子(兼務)、水口こと美、山本真也、
浜上玉恵、片西登、欠席2人(松井修一、中村八寿子)

(2) 事務局

市長 中山泰、教育長 松本明彦、副市長 中西和義、副市長 近藤健司
市長公室長 引野雅文、市長公室政策調整監 川口誠彦
建設部長 中川正明、都市計画・建築住宅課長 井上浩一
都市・地域拠点整備推進室長 安田悦雄、同室 橋智子、同室 石井真澄
こども部長 蒲田有希子、こども未来課長 金子隆行、同課 永島一陽
子育て支援課長 野村亜紀子
教育次長 川村義輝、生涯学習課長 松本優、市立図書館長 亀田真奈美

6 次第

(1) 開会

(2) 市長挨拶

(3) 議事

ア 議会審議の結果について

イ 意見交換

ウ その他

(4) 閉会

7 公開又は非公開の別 公開

8 傍聴者 12人

9 要旨（議事経緯）

開会

<事務局>

それでは定刻となりましたので、ただいまから京丹後市都市拠点公共施設整備に係る、京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議、京丹後市図書館協議会及び京丹後市こども未来まちづくり審議会の合同会議を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては公私とも大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は本日司会進行をさせていただきます、京丹後市市長公室長の引野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、お配りしております資料の確認をさせていただきたいと思います。

次第に続きまして資料1として委員名簿、資料2が審議会等設置根拠規定、資料3が議会提案資料、資料4が議会審議結果（概要）、資料5が京丹後市都市拠点構想（抜粋版）、資料の6が京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画（概要版）、資料7が諮問書答申書（図書館協議会）、資料8が諮問書答申書（こども未来まちづくり審議会）、資料9が今後のスケジュール、以上の資料となっております。配付漏れ等ございませんでしょうか。

続きまして、都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議に係る交代委員の委嘱をさせていただきます。

京丹後市PTA協議会からのご推薦により参加いただいております後川様の後任として、今回から志水様に新たにご参加をいただいております。

本来であれば直接委嘱通知書を手交させていただくべきところですが、時間の関係もございませんので、大変恐縮ですが、席上に配布をさせていただいております。ご了承いただきますようお願いいたします。

続きまして、本日の会議の出席委員の皆様のご紹介を私の方からさせていただきます。資料1の名簿をご覧ください。

～委員紹介～

続きまして京丹後市側の出席者を紹介いたします。

～事務局紹介～

続きまして会議の成立についてご報告を申し上げます。

各会議設置根拠規定により、委員の定数の過半数が出席しなければ会議を開会することができないと定められているところ、都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議につきましては、10人の委員のうち9人の委員にご出席をいただいております。図書館協議会につきましては、委員10

人のうち7名ご出席いただいております。こども未来まちづくり審議会につきましては、委員10名のうち8名ご出席いただいております。本会議を構成する各審議会の開会要件をすべて満たしておりますことをご報告申し上げます。

それでは、開会の挨拶を京丹後市中山市長から申し上げます。

<市長>

こんばんは。改めまして中山でございます。

本日は、皆様お忙しい中お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

また、大庭先生におかれましても、お忙しい中リモートでご参加いただいております。本当にありがとうございます。

さて、委員の皆様には、都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議、図書館協議会、そしてこども未来まちづくり審議会のそれぞれの委員として、本件をはじめとするそれぞれの分野で、日頃から精力的なご議論を賜っております。まずもって御礼申し上げます。

その上で、都市拠点公共施設の整備に向けて、ご答申をそれぞれの会議体からいただきまして、我々としてもそれをしっかりとお預かりして、この度、6月市議会定例会において、都市拠点公共施設整備のための土地確保に係る予算など、具体的にスタートしていくための内容を盛り込んだ議案を提出させていただいたところです。

そして、去る9月4日にご議決をいただき、結果は我々にとって残念な否決ということでありましたけれども、皆様からの大切なご答申を扱って出させていただいた経過なども踏まえて、これは速やかに皆様に議会の結果をご報告させていただきたい。その上で、これからの進め方等も含めて、忌憚のない、想い、ご意見等についてお聞かせいただくことが、今後の新たな出発のためには大切だということで、早々にお集まりいただいた次第です。

議会におけるご審議、また、採決の状況は、賛否が拮抗するような状況の中で、幅広い観点からご議論を賜ったというふうを受けとめております。

同時に、子育て支援のための施設、雨の日でも遊べるような施設、中央図書館の整備といったこと施設の内容自体については、議会の皆様ともご議論を通じて改めて大切さを共有する機会になったとも受けとめておまして、その上で、この大切な機能、施設の整備を前に進めていくため、議会において頂戴したご意見をしっかりと受けとめ、検証も加えながら、そして糧として、これらの施設整備についてよりよい形で前進をして参りたいと考えているところです。

議会のご承認もいただきながら第3次総合計画を策定いたしました。今後の大きな方向として、山陰近畿自動車道が近く大宮峰山インターチェンジとして入ってくる。さらには、市内全線の整備が展望できるようなルート決定についても、具体的にスケジュールとして手の届くところにあるような時代を迎えて、我々としてもこれを前提として、まち全体の振興を願いながら、都市拠点というものをどう持っていくか、そして同時に、地域拠点というものを併せて作っていく。都市拠点、地域拠点、それぞれを持ちながら、まち全体の魅力をどう高めて、そして同時に、どこにお住まいになられても相応の一定の都市的利便は享受できるような環境をどう作っていくかというようなことを、大きく総合計画に掲げてまちづくりを進めているところです。

その上で、人口減少が進むなか、かねてよりのご要請も強い子育ての施設、さらには中央図書

館を初めとした図書館の整備はそういったまちづくりの中で欠かせない、とても大切であるというふうに思っておりますので、今回の議会のご議論をしっかりと受けとめながら、そういった施設の整備を目指していく。また、今日のご報告とともに、検討の起点にもしていきたいと考えておりますので、忌憚ないご意見賜りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

<事務局>

ありがとうございました。

次に、本日の会議に係る会議録署名委員の確認をさせていただきます。

都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議は藤井副委員長に、図書館協議会は松岡会長に、子ども未来まちづくり審議会は山本委員にご確認、ご署名をいただいた上で、公開をさせていただきます。

それではここから議事に入らせていただきます。

本来ですと各審議会の会長様、または委員長様に議長をお世話になるところでございますが、本日の会議につきましては複数の審議会等の合同の会議であるということと、また内容につきましても市からの報告等が中心であり、議決事項もないことから、このまま私の方で進行のほうをさせていただければというふうに思いますが、皆様よろしいでしょうか。

それでは、ご異議ないようですので、このまま私の方で進行を務めさせていただきます。

委員の皆様方には、スムーズな議事進行にご協力をいただきますようお願いいたします。また、ご発言いただく際には挙手をいただきまして、マイクをお渡しいたしますのでマイクを使ってお願いしたいというふうに思います。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、議題の（1）議会審議の結果についてです。事務局から説明を申し上げます。

議事

<事務局>

資料3と資料4について説明させていただきます。

まず資料3をご覧ください。これは6月議会に関連予算を提案した際の資料となります。

～資料3に基づき事務局から説明～

続きまして、資料の4をご覧ください。

こちらが補正予算に係る議会審議結果の概要についてのご報告、ご説明の資料となるものでございます。

議会審議の中では、様々な観点からのご意見を頂戴いたしました。

賛成反対など様々な意見について、論点を4つに整理するとともに、それぞれの論点の主なポイントについて、事務局で総括的にまとめたものでございます。

～資料4に基づき事務局から説明～

<委員長>

事務局からの説明内容につきまして、ご質問等ございますでしょうか。

<委員>

図書館の部分の予算はどれぐらいなんですか。

<事務局>

図書館と子育て支援機能、それから、母子保健の機能といったようなことを併せ持つ複合施設として試算をしているものであり、図書館だけを建てた場合、いくらになるのかといった試算はしておりません。

<委員>

図書館だけを建てた場合ではなく、その中で図書館部分に係る費用はわかりませんか。

<事務局>

整備費用に対して図書館部分はいくらかということですが、全体の延床面積 6,000 m²に対して、図書館部分は約 2,000 m²となり、本来であればサービスカウンター、執務室、共用部分といった見合いも併せて試算する必要がありますが、単純に試算するのであれば 6,000 m²分の 2,000 m²ということで、3分の1程度が図書館部分に係る費用ということになるかと思えます。

<事務局>

他にご質問ございますでしょうか。なければ、続きまして次第の2番意見交換に移らせていただきます。

議会における審議結果を踏まえながら、幅広いご意見を頂戴し、今後の参考とさせていただきたいと思えます。

進め方としては、まず、各審議会等の委員長、会長からご意見を頂戴できればと思えます。それ以降につきましては、ご自由に皆様の方から挙手をいただいて、ご意見を賜ればというふうに思えますので、よろしくお願いいたします。

まずは、都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議、大庭委員長からお願いいたします。

<委員長>

まず今回の結果について、やはりこの公共施設、複合施設を整備することで、現在の市民、そして将来の市民の皆様が得られたであろう便益の享受が遅れるという観点においては、非常に残念に思っております。

今回、論点が4点あるということですが、この論点においてウェイトがあるのかということをもまずはお尋ねしたいと思います。

例えば、財政的な論点に対しては、委員としてもこれまで丁寧に議論を重ねてきたつもりですので、この数字の妥当性について、事務局として議会に対して丁寧にご説明いただくということになるかと思えます。

論点の2についても、私はコロナ禍頃から関わらせていただいておりますが、非常に丁寧に進めていただいておりますので、市民の方々にも一定行き渡っていたのかなという思いでしたが、そうではなかったということですので、このあたりも丁寧にご説明すればご理解いただけるのではないかと思います。

いずれにしましても、論点のウェイトによって対応は異なるのではないかと思いますので、その点お伺いいたします。

次に、強調したい点も2点程ございまして、まず1点目が、今回の都市拠点における施設整備に関しては、単に図書館機能、子育て支援機能の確保ということではなく多面的な意味合いがあると考えています。

都市拠点というエリアに整備するわけですので、アクセスのよい立地により皆様のご利用が見込めるということと、商業施設も周辺に立地しているということ、生活動線も踏まえて検討されているという立地であるということからも、非常にシナジー効果が生み出されることが期待されるということをご理解いただきたいと思えます。

もう一点は、平時だけではなく災害時には避難所にもなりうるという、昨今ではフェーズフリーという言葉もございしますが、この施設が色々な場面で機能が発揮するということも含めて、重要性をご理解いただきたいと思えます。

そういったことを市民の方々も含めてご理解を深めていただけると良いのではないかと思います。

<市長>

貴重なご意見賜りました。ありがとうございます。

論点のウェイトについてご意見いただきましたが、これについてはどれも大切だと受けとめております。

意見表明の機会というものが議案審議のそれぞれの過程の中ではありますが、すべての議員の皆様が時間をかけて、そして、それぞれの中に色々な観点を織り込みながらご議論されたということです。単純にどれがどうだということが基本的に言えないような、逆に言えば、どれも大切な論点と受けとめています。そして、行政としては、それぞれの論点を検証しながら、しっかりとこれを活かしていくということであると思っております。

<事務局>

続きまして、図書館協議会 松岡会長お願いできますでしょうか。

<会長>

今回の議決は傍聴させていただいて、色々勉強させていただきました。

今回実現には至りませんでした。私としては場所が本当にいいなと思っておりますので、

とても残念な結果になったと思っております。

京丹後市は子育て環境日本一、また 100 歳長寿のまちをうたっておりますので、ぜひこの結果にめげずに、次の計画を立てていただきたいと思えます。

子どものためと思われがちですが、これからは高齢者がどんどん増えてくるので、高齢者も良い時間を過ごせる図書館というものを考えていきたい、考えていただきたいなと思っております。

本日の新聞に教科書のデジタル化という記事が掲載されており、そういう時代が来たんだなと思っておりますが、なおさら、ほとんどが紙媒体である図書館というものの大切さ、子どもたちが本を読むことの大事さということ、本当に今、考えないといけない時期に来ていると思えます。

図書館だけのことを今言っておりますが、どういう図書館にしたいかということをもみんなで考えて、それに向かって、また、スタートが切れたら本当にいいなと思っております。

<事務局>

最後に、こども未来まちづくり審議会、片西会長お願いできますでしょうか。

<会長>

こども未来ですの言うまでもないことですが、子どもの未来を見据えたまちづくりについて何をしていけばいいのかということについて考えてきました。

申し訳ありませんが、財政的なことは度外視して、素晴らしいまちづくり、夢を語れたらいいなということで進めて参りました。

ですから、子どもの未来を見据えたまちづくりをするためには何をすればよいかということで、やはり京丹後市に生まれた子どもたち、成長途上にある子どもたちにとってよりよい環境を作ること。そして、子育て世代の人たちへ、安心して子育てできる環境を提供することを大切なポイントにして議論を進めてきました。

そのことが、子どもたち自身が将来も地元に住みたいという願いに繋がり、また子育て環境が充実していれば、近隣の都市、あるいは都会の方からでも、移住者の呼び込みに繋がるのではないかとことも考えておりました。

実際私も浅茂川区に住んでいますが、近年、3軒家族連れが引っ越ししております。

ですから、先ほどもありましたけれども、少子高齢化が著しい当地域におきましては、そういった環境を作っていくということが非常に大事じゃないかということです。

先ほど市長の挨拶にもありましたけれども、令和3年6月に子育て支援に関する施設の現状課題や市民ニーズなどを踏まえた今後の子育て支援拠点のあり方についてという諮問を受け、10月に答申をしたことの骨子ですけれども、やはり子育て世代の親子が、曜日、天候問わず集うことができ、楽しく遊び、交流ができ、しかも困ったことがあったら気軽に相談できる、そこに行けば様々な情報が得られるような施設ができたらいいな、その上でカフェ等も併設できたら、そういう施設ができたらもう最高だねというような話をしておりました。

これは絵空事だけではなく、バックボーンには未就学児童や学齢児童の多くの保護者のニーズ調査に基づいたものでもあります。

ですから、今回残念な結果になったようではありますが、趣旨そのものについては反対される方

はおられないと思います。

私ども委員 10 名も、この施設が近い将来できることを一日千秋の思いで待っておりますので、よろしく願いいたします。

<事務局>

それでは、ここからは他の委員の皆様も含めて自由にご意見、ご質問をお伺いできればと思います。ご意見ご質問ある方、挙手お願いできますでしょうか。

<委員>

本日の合同会議について、議会で否決をされましたので、審議内容について説明しますということでご案内をいただいているんですが、今日来てみると議会審議結果についてということで、少し違うのかなと思いますが、基本的に議会の結果については審議会の方からはそうになりましたかということなので、結果自体については特にありませんが、皆さんおっしゃるように大変残念に思っています。

答申のことですが、議会の議論の中で、時間がかかりすぎるのではないかと、こういう方法をすればもっと早くできるのではないかとといったご意見があったかと思いますが、その件についても答申しているんです。

当時、複合施設を建ててくださいということだけではなくて、その他のところで、整備には一定の年月を要するという点についても触れています。

それから、自分の住む地域の近くにそういうものがあつたらいいというご意見もありましたが、その点についても答申で触れています。新たな地域コミュニティの中にそういう機能を位置づけることはどうだろうかというようなことも答申で触れております。

今回は、用地取得と基本設計の予算ということもあつたのですが、こういう全体のことですとか細かい内容について議論にならなかったのかなと思いますが、結果としては、議会では色々なことが議論されていきました。

そうであれば、事務局の方からこのあたりについても、もう少し説明をしていただくとよかつたのではないかと答申を出した審議会としては思っています。

地域コミュニティの中に、子育て支援も位置付けたらどうだろうかということも答申しておりますが、複合施設を建てて欲しいということだけではなくて、もう少し広い意味で答申をしておりますので、そのあたりのところも議会で説明をしていただきましたら、どなたも作らなくていいとか施設がいらねえと言われて方いらっしやいませんでしたので、最初に大庭先生おっしゃったように、丁寧に説明をしていただければきつとご理解いただけたのではないかと思っています。

今後、そのあたりも検証をされまして、また諮問があるのかどうか分かりませんが、しっかりとお話をしていただいて、本当に待ってますので、いいものができるように願っております。

<事務局>

今ご説明いただいた内容は、資料 8 として、こども未来まちづくり審議会への諮問の後に答申書という形で付けさせていただいている内容と、市審議会の審議の結果の (3) のところのあたり

をご紹介いただいたかと思えます。

議会への説明のあり方につきましては、いただいたご意見しっかり受けとめさせていただいて、今後、必要な対応改善をしていきたいと考えております。

<委員>

京丹後市障害者団体連絡協議会から参加させていただいておりますが、この施設整備に対しては、団体として障害のある方々が使いやすいような、あるいはそういう地域づくり、環境づくりというところで関わってきたつもりです。

今回議会で否決されたということで、そうだったんだということで思ったわけですが、また再度挑戦していこうというようなお考えだと思います。

そのことに対して私としてどうこうということはないんですが、一方で、あちらこちらで京丹後市の財政は厳しいということが言われていて、私たちの団体も補助金が今回はなかなか厳しいというようなことも言われたりする中、市民感情としてそのあたりがやはり強くあるのかなという気はしています。

そういうことも含めて、市民への理解が必要だろうなと思っています。

私は検討会議に参加してきましたが、私たちの役割というのは、そのコミュニティづくり、建物づくりの中身を議論していくということでしたが、土地確保であったりそういったことに時間が費やされていて、そこに私たちが関わるということに対しては何なのかなとずっと思ってきました。

ですから、今後も関わっていくということになるならば、もう少し土地が決まって、これでいきますよという段階で、具体的に障害者団体から意見くださいとか、そういうふうになっていったらもう少しスムーズに私たちも自分たちの問題として考えていけるかなという気がしています。

世論を二分するような情勢の中で、自分が審議会の委員として参画しているということは、これはなかなか大変だなと改めて感じています。

<事務局>

ありがとうございました。

他にございますでしょうか。

<委員>

私は否決されたときの議会の様子を見て、議員の皆さんが意見をたくさん言われましたが、最後に挙手で9対9。そして議長さんで否決という結果を受けて、私は傍聴人として疑問だけでした。

議員の皆さんは、京丹後市をいいまちにしたいという考えで集まっている方だと思うんです、都市拠点公共施設については、私の友達、また周りの住民は、作って欲しいと言っています。若いお母様などは泣きながら欲しいんだと訴えていますよ。雨が降ったときなどは、そういった施設がないと困るとおっしゃっています。それを、否決されたからできないとか、そういうことで片付けてはいけないと思うんです。

よくわかっていない者が言っていますから、流して下さって結構ですが、本当に必要だと思います。

図書館を見ても、峰山図書館は暗くて狭い。弥栄図書室は狭くて小さくて本当に大変です。小さい子どもに読み聞かせをしても、楽しくないと感じられると思います。

大宮図書室で中学生が勉強していましたので、よく来るのかと話していましたが、大変狭くて勉強しどころがないような感じと言っていました。

そのような中で、議員さん 19 名はほとんど賛成らしいことを言いながら、結果として賛成は 9 名。何ですかあれは。本当にもっと勉強して、市民を巻き込んで作らないとこれは実現できません。

高齢者もいずれ障害者に近いことになります。そういった人達が集まる場所がないということは、まち自体が過疎になる一方です。

市長さんには悪いですが、もっと若いものを呼び込むような仕事、場所を見つけるなど、もっと頑張ってもらいたいんです。

本当に私のような事情をよくわかっていない者が、このような意見を言うのはおかしいですけども、この施設は本当に必要なものです。

子育て世代の関係でも、お母さんたちが泣きながら、私はこんなことは知らなかったから、もっと早く知ってたらもっともっと運動していたのというような意見も出ています。

今回否決されたことにより、これから先に整備までに何年かかるのか。何年もかかったらこのまちはどうなるのでしょうか。それが不安でたまりません

私は、子どもたちに、丹後に帰ってきて気張って働いてと言って送り出したものです。

私は長い間、図書委員会にいて、図書館協議会に参画させていただいて、もう古株です。その長い間、ずっと訴えてきました。子どもたちにも訴えました。

それから、もともと丹後町の者ですから、図書館は良くなったな、ほっとしたな、でも本が少ないなというのは感じてますし、本当に予算は削られるし、これはどうしたらいいのか、過疎債が云々で早くしないとだめなのかなあとか、その財源が見えないものですから、どういうふうに訴えていったらいいものかわからないような状況です。

本当に市民の 1 人としては、どのぐらいのお金があって、どういう状態なのかわからない者が意見を言っていますが、やはり、市長さん、皆さん頑張って欲しいと思います。大変ご苦労だとわかっていますが、欲しい人はたくさんいます。是非とも作ってください。

<事務局>

ありがとうございました。他にございますでしょうか。

ご発言いただいてない方もまだいらっしゃいますので、少しマイクをおまわししてもよろしいでしょうか。

<委員>

私も傍聴に行かせていただいて、協議会の方からも答申をして、本当に長い長い間念願だったことが、色々な理由がある中で、ただ単に賛成の方がとか反対の方がとか、そのように単純には

言い切れない大きな問題の中でこういう結論になったということで、色々な問題があるんだなということ私自身がこの間とても勉強させてもらったなという気がします。

しかし、どの議員さんもやはり必要性はとても強調していらしたので、そこはみんなの合意ができる場所ですから、じゃあ今の財政でどういう形ができるのか。

やはり図書館というのは、生涯にわたって必要なものだと思いますし、図書館を通して人と人が繋がる、そして、それぞれの知的な好奇心を満たしてくれるだけではなくて、本当にまちづくりの中心になりうる場所でもあります。

本日はたくさんの情報を教えていただいて、私自身、まだ消化しきれないでいますが、何とか今の財政の中でできることを、図書館協議会として一生懸命に考えながら、先ほど既存の施設を活用するとか廃校をとるという議会からの意見もおっしゃってましたけれども、どんな形になるかわからないですけども、よりよい施設ができるように、私も協議会の一員として頑張っていきたいと思っていますので、力を合わせて事業を進められたらと思います。

<委員>

このような施設が欲しいとおっしゃる方が多数といえますか、皆さんあったらいいんですけども、必ず建てた方がよいという判断材料が、この紙ベースの資料だけ見ているとすごく難しく、どう判断していいかわからない部分というのはあるのかなあと、皆さんの意見を聞いていて思いました。仮設で作ってみるというのはできないんですかね。

整備の必要性というのが9対9で割れるということはあんまり今までなかったように思っていて、皆さんのご意見も欲しいんですけど、具体的なイメージが湧かなかつたり、お金の問題があったり、いろいろな思いがある中で何とか形にしていきたいという落としどころを、今後この紙とお金と説明で続けていって、果たしてみんながいいねと思ってもらえるような形になっていくのかというのはちょっとわからなくて、自分だったらどうするかと思ったら、ちょっと1回やってみるかという思いになったので、お伝えします。

<事務局>

今のご意見について、仮設のお話ありましたがけれども、図書館ではなくて子育て支援の関連事業として、厳密には仮設ということではありませんがそういう思いも込めて、令和6年度に「1日こども広場」という屋内のあそび場イベントを市内3ヶ所で実施させていただきました。

大変ご盛況で、ぜひこういった施設をというようなお声を多数いただいたということも踏まえながら、我々としても提案しているということでございます。

<委員>

傍聴に行かせていただいて、とってもがっかりしました。

議員さんも一生懸命勉強されていて、色々なご意見、思いを語っておられましたが、図書館は本を借りたり返したりだけではないんですよ。昔はそうだったかもしれませんが。でも今は生活の一部として、生涯学習の一部として世の中における位置づけは変わっております。

そのことについて、議員さん、市民の皆さんも一緒に感じていただきたいと思います。

図書館というものの流れと言いますか、時代の流れに沿った図書館と言いますか、私が委員になってからずっと言っていることは、10年も前ですけれども、今の峰山図書館は3階にありますが、もっと低い場所で、シルバーカーを引いてでも行けるようなところ、ベビーカーを引いてもそのまま行けるようなところ、かつ、くつろぐことができほっとできるとか、そういうところを提唱する案を出しておりました。そういう形で答申もしてまいりました。

先日の議会の傍聴にも行かせてもらって、図書館についてのご意見もあったかと思いますが、時代が変わっているということと、それから、今は紙ベースだけではなくITの時代になりつつありますが、だからこそ紙の大切さ、ページをめくる喜びとか、うれしさとか、生涯にわたって勉強できる場所であったり、またゆっくりできる場所、そういうような夢を語って、夢はお金に変えるのはちょっと大変ですけれども、そういった夢を持って生活できる京丹後市って素晴らしいと思うんですね。

高速道路を下りてきたら、あの建物は何だというところから、子育てが充実しているとか、それから、商業施設があるので京丹後市の発展にすごく寄与するものだと思っておりました。この間の議会の否決には残念でなりませんでした。

今、高齢社会ですし、京丹後市もどんどん人口が減っております。そういった意味でも起爆剤になればいいなと思ってすごく期待しておりました。

本日、会議に出席したら、次を考えるとおっしゃったので、うれしいことだなあと思っています。形は変わっても、子育て支援施設や図書館ができることを希望しておりますし、赤ちゃんを連れた子育て世代のお母さんたちがすごく残念がっておりまして、雨が降っても、よその地域に、またお金払っていかないといけないところばかりだと話しておられました。

例えば私も、他地域の屋内のあそび場施設に孫を連れて行きました。どこからの利用者が多いのですかと聞いたら、京丹後市の方が80%ですっておっしゃいました。早く作ってもらったらいいのにねと言って、近隣の施設ができたころに行った際にはそう言われましたけれど、やはり、欲しいんですよ。

赤ちゃんを連れたお母さんは、雨が降っても遊ばせたい。もう小さい部屋にずっといると、息が詰まってしまうと言っています。私は子育てサロンをしているんですけれども、サロンに来てくれるお母さんも、もう何とかして欲しいと言っておりますし、ぜひ、これからの子どもを育てているお母さんや、その子ども、子どもたちがまた大きくなって、京丹後市で結婚して、子どもをもうけて、またその子たちが大きくなってという連鎖をプラスの連鎖にできたらいいなと思いますし、ぜひそういう素晴らしい施設を望んでおります。

<委員>

図書館協議会の委員としてはまだ1年半ですので、この平成から語られている中身を、委員の1名として語るには自分の言葉に自信がありませんので、その思いについては先ほどから会長はじめ述べられてきたかと思っております。

今日は否決されたことへの説明会ということで、論点の中の1つ財政的な懸念という観点がありましたが、これを否決した場合において、その限りある市の財源をどこに注いでいくのかということが、今後また議会だよりですとか、市の広報紙などで広報されていくかなと思うので、そ

こも気にしながら、どこを優先的に市政を進めていかれるのかということを知りたいなと思っております。今日は勉強の機会ありがとうございました。

<委員>

都市拠点を整備する予定の新町地区の区長をしていますが、今回議決で認められなかったということで、色々な論点があると思いますけれども、各拠点の地域の市民の声に対して、その地域の議員の皆さんが市民の声をどれだけ吸い上げて議会で討論されているのかというところは、何か薄いような気がしてならないんです。

否決の議員さんと可決の議員さんがおられますけれども、市民の声としては、これだけ皆さんが子育てとか図書館、福祉関係とか色々な話はあるんですけれども、そういった皆さんの市民の声をそれぞれの議員さんがどれだけ吸い取って議会において討論されているかというところが少し欠けているんじゃないかなあというような気がしてならないんです。

そういう観点で皆さんにも、もう一度、市民の声を吸い上げて、再度、議会の方でどのようにしていくべきかという論点の方に持って行っていただければ、一番ありがたいかなと思います。

<委員>

今回前任から引き継いで、月曜日にこれまでの検討経過に関する資料をもらったところですので、半分もわかってない状態で申し訳ないんですが、小中高と4人の子育てをしています。半分もう子育てが終わったような所ですが。私からすれば、言ってみたらこの冬にでも子どもが遊べる場所があった方がありがたいじゃないですか。

これが何年後の話かはわからないんですけれども、廃校利用とか、そういった今ある建物の利用というのも全然視野に入れてもらったほうが子育て世代としてはありがたいし、早ければ早いほどみんな喜ぶと思います。

少し気になったこととしては、コワーキング施設が想定される施設機能に含まれていますが、私は、かぶと山のコワーキング施設をよく使わせてもらうのですが、利用者実績はどのような状況なのでしょう。私はいつも貸切状態で使わせてもらっています。ここに需要がどれだけあるのかなというのが少し気になりました。まちまち案内所にもコワーキングスペースがありますし、京丹後市内に何か所かあるかと思いますが、わざわざここに織り込むほど需要があるのだろうかという疑問が少しあります。

<委員>

本当にとっても残念な結果になったと思っております。

私は、令和3年から京丹後市都市拠点等のあり方検討会の委員をさせていただいております。

都市拠点検討会議においては、市から毎回丁寧にご説明いただき、また委員の皆様からは本当に活発なご意見をいただきました。

また、中学生のワークショップや若者とのワークショップの中でも、若者が将来の京丹後市にあったらいいね、こうしたい、こうなって欲しいという想いを聞かせていただきました。

こちらの資料3の8ページにもありますけれども、海南ノビノスには、私たち検討会議の委員

として視察に行かせていただきました。視察の際に思いましたのが、親子で遊んでいる姿、高齢者の皆さんがゆっくりと過ごしている姿、また、若者が勉強している姿を実際に目の当たりにして、本当にとても京丹後市に必要な施設だと思いました。

京丹後市の子どもたちの未来のことを考えたときに、多世代の方々が集う場として都市拠点公共施設は必要な場だと思っております。

そしてまた、近くに高速道路が延伸し、人が集まってまいります。市外からもお越しになります。この機会は、京丹後市にとって、とても発展するチャンスだと思っておりますので、ぜひ、前向きに進めていただきたいと思いますと思っております。

<委員>

先日の議会でも、最終決定権は議会にあると、ある議員さんが言われました。我々が令和3年度からこの検討会議でやってきたことは、最終的に議決権を持つのは議会だからというぐらいに否決されたことがすごく残念で、何が足らなかったんだろうなとつくづくその時に思いました。

今、否決されたということに関しては、もう何も今申し上げることがないぐらい、すごく残念に思っております。

市民の方たちの中にも、賛成の方も反対の方もいらっしゃいます。その中で、検討委員はどうだったのかというような意見も聞きます。検討委員として、この都市拠点公共施設は絶対に作って欲しいと思っておりますけれども、自分の検討委員としての資格みたいなものは、今はすごく失われているというか、降りたい気分というのが今の心情です。

先日から議会を何度か見させていただいているんですけれども、もう1つ残念だったことは、先日の議会で検討会議、審議会に出席されている方が、市民の声を聴く会に出席されるのはいかがなものかというような発言がありました。それに対して、市長の答弁で言われた通り、やはり検討委員も市民の立場でその場所で意見を言えばよいのではないかと私も思っております。会議にも出席させていただいて、検討委員としての意見は会議の場で話しをさせていただきましたけれども、市民の声を聴く会においては、やはり市民の1人として、この拠点施設を早く作って欲しい、図書館を早く作って欲しい、全天候の子どもたちの居場所を作って欲しい、そのような想いでその会に出席をさせていただきました。

その市民の声を聴く会については、思ったよりも出席の方は少なかった印象です。なぜかというと、その会議が開催された時間が夕方でした。夕方に若いお母さんたちが出席できますか。働いている主婦の方が出席できますか。そんな時間体に設定をしてもらって、市民の声を聞きたいと。それはちょっと間違っているのかなと思いました。

令和7年度の取り組み予定を見ますと、市民向け広聴会の開催を6町で実施と書いていただいております。これについても時間帯は考えていただいて、色々な層の人間が参加できるような状態を作っていただきたいと思いますと思っております。

我々の検討会議の中では、本当に令和3年度から中学生も高校生も一般の方たちも、皆さんが望んで都市拠点を作って欲しいという答申をしたのです。それに対して、あのような結果が出たということが本当に残念でなりません。

言ってしまうともう遅いんです。この京丹後市に住んでよかったと思っている人間がどんどん

減ってきていると思うんです。やはり我々は、京丹後市に住んでよかったというまちづくりを、絶対にして欲しいと願っております。これが私の一番の願いです。

<委員>

皆さんが言われたことと私の想いも全く同じで、今回とても残念です。

8月2日に開催された懇談会、それから9月2日・4日どちらの議会にも傍聴に行かせていただきました。

本当に財政面で問題がある、色々なところがすべて予算を削られているのはもう当然知っているわけですがけれども、どうにか工面をしながら前向きに検討していただいているので、本当に財政面で駄目ならもう諦めなくてははいけませんけれども、否決されたときにはもう力が抜けたとか、そういう思いしております。

忙しいときに、短期間で若いお母さん方が一生懸命署名に回られた様子や、大変出にくい時間の懇談会にも関わらず、子どもを連れて参加しておられたお母さんもありました。そこで泣いて訴えておられました。もうその時の様子を思うと、私も今でも胸が詰まります。もう何年も何年もずっと望んでいますと、それが否決されるんですかという方の想い、もう胸が詰まる思いしております。

やはり、これは市全体、社会全体の意識改革が必要であり、少子化の問題に対しては子育て支援はコストではなくこれは投資であるということ。そのところをしっかりと踏まえて、図書館だけのことを言われた議員もおられました。図書館だけではないです。図書館はとても大事ですし、私も行きます。そこはやはり人と人が繋がるということが大勢の人が来ることによって、色々な化学変化が起きます。

そして、私もいのちの会とか、色々な活動をやっていますけれども、去年は京都大学の脳科学者の明和政子先生のお話を聞きました。その時に、共同養育という話も出ました。今子育てで進んでるところは、やはりそういう想いでやっておられる。そういったみんなで子育てしようと思って取り組んでいるところは子どもも増えている。

本当にもう待ったなしの問題だと思います。今現在でも、一生懸命な取り組みをして若いお母さんたちは走り回っておられます。先日も、峰山駅が100周年迎えました。3日間のイベントでしたが、お母さんたちがベビーカーに乗せた子どもさんを連れて楽しんでおられました。それを目の当たりにすると、やはり笑顔を私は守っていききたいし、後押ししていききたいと思うので、やはり都市拠点だけで地域はどうなるんだとおっしゃいますけれども、そうじゃなくて都市拠点がきっちりあることによって、そこはやはり活気が生まれてくることにつながります。

6町合併のことをいまだに言われる議員さんがおられましたけれども、今の若い子たちは6町なんてことは言いません。京丹後市です。

丹後町には丹後町のよさがあります。弥栄町には弥栄町のよさがあります。そこは自然に恵まれて、アウトドアの遊びをできるときは思いっきりできる、良いところです。京丹後市は、そのところを踏まえつつも、それでもやはり核となる施設はいると思います。これはコストではなくて私は投資だと思います。前に進めて欲しいと私は切に願っております。

<委員>

まず、今日のこのような重大な会議に参加させていただき中、皆様の強いご意見や想いというのを聞かせていただきながら、今日いただいた資料につきましても、事前にいただけていたらもう少し自分なりに深く理解ができたなというあたりを感じておりました。

議会での審議についても、仕事の都合で傍聴はできませんでしたが、仕事から帰ったときに主人から1票差で否決されたということだけを聞いてというような状況でした。

議員の皆様におかれましては、否決か可決かという中で、たった1票の差であったということで、もしも最後の委員長が賛成されていたら、これはそのまま進んだのではないかなと思えるような、それが1票の差で否決となったということで、本当に1票の差というのは大きいし、また残念だなということを感じました。

私は、こども未来まちづくり審議会の方に参加させていただいて、子どもたちが京丹後の宝、それから、高齢者の方たちは100歳長寿で元気に生きておられるという中で、今後ますます少子化は進んできています。

高齢者は増えますが、少子化が進んでくる中で、やはり京丹後市には色々な魅力がたくさんあって、いいところだなと感じられるようにしたいですし、また、お母さんたちは雨が降っていても室内で遊べる場、それから色々なお母さんたちと交流しながら子育てを共有して、子どもたちを将来に向けてどんな子どもにしたいかなというような子育ての楽しさを感じられるような、そんな拠点を望み、求めておられるという部分は強く感じます。

そういった中で、初めは荒山の方で検討を進めておられたところ土地買収ができず、今度はマインの近くの方にと場所が変わって、今回否決という結果になっていますが、やはり近い将来を見据えると若者もみんなが欲しいと考えている施設ではないかと思えます。

高齢者も子どもたちもみんなが、京丹後市で楽しく住みたいと考える中で、やはりこの都市拠点ということが今後どうしていったら実現できるのかというあたりを考えながら、1日も早く都市拠点整備が進められるようにできたらいいなというふうに思います。

<委員>

私は、こども未来まちづくり審議会に参加してまだ間もなく、去年から参加させてもらっていて、はっきりいって新参者ですけども、新参者としてちょっと生意気な意見になるかもしれませんが、正直この事業については子育て世代として何となくはそれまで聞いていましたけれども、何ら知らないという人が多分たくさんいると思います。

ですから、今回否決された、これを境にもっともっと必要性を説いていく必要があるのかなと。

こういうことで投資が必要なんだよということを、もっともっと伝えていく、まずはそこからではないかなと思います。だから、多分その辺でまだギャップが一般の市民の人との間であるのかなと思います。

なんだかんだと言っていたら、本当に5年10年はすぐ経ってしまうので、時間がない中、予算の関係もある中で、どのような形になるかわからないですけど、ここにいる皆さん中心に、今日から頑張ろう、建てるんだということを一人一人言っていくことが、まずそれができるとかなと思っています。私も新たにできる図書館などを楽しみにしている部分もありますので、どのよ

うな形になるかわかりませんが、力を合わせて1日でも早く整備できるように力をあわせて頑張っていきましょう。

<委員>

私には4人子どもがいて、一番下が1歳2ヶ月なんですけれども、だから、興味があつてすごく聞いていたんですけれども。

私はこども未来まちづくり審議会のメンバーなので、図書館のことはあんまり知りませんでした。

それで、議会で否決になったというのが図書館のせいなのではないかと思ってしまうと、図書館の分を削って安くしたらいいのではないかと思っていたんですけれども、でも、今日会議に参加してお話を聞いていたら、やはりすごく大切なものだと思ったので、図書館も一緒にどうやったら実現できるかということ、やはり私も今日参加して大切さがわかったので、他の人にもどうやって説明をしたらわかってもらえるかとか、そういうことを考えてもらえたらいいなと思います。

あと、高齢者はどうなるんだという声もありましたが、子どもから高齢者までという間にやはり若者もいるし、私と同世代の親世代もいるので、誰もが利用できるということも考えて欲しいです。

例えば、わたしの旦那は30歳の成人式の実行委員長をしていますが、いつも吉翠苑をたまり場として使わせてもらっていて、公共施設においても、そういう夜に子どもを連れてでも打合せなどができるような、コワーキングスペースといいますか、そういう施設もあつたらいいなと思います。

それと、無料の遊び場ということにもこだわってはいなくて、ちょっとのお金ではあまり儲けにならないかもしれないですが、少額でも利用料を設定して運営すればいいと思います。

200円程度の利用料金を設定した場合の試算を、「WACCU TOYOOKA」の利用者にに基づき行ってみると960万円ぐらいになったので、ある程度の利用料だけでも取ればよいのではないかと思います。

<委員>

この子育て支援に関しては、長いこと携わらせていただいております、初めから今に至るまで、ずっと保護者の方は雨が降っても集まれる、遊ばせられるスペースが欲しいということをお願いしていらっしゃいます。それがいまだにまだ実現しないということは、もうすごく難しいことでもあります。

あと、今年初めて知りましたが、小学校の夏休みの宿題を頑張らなきゃいけないね、作文も書かなければいけないし、なんて言っていたら、保護者の方が、今の宿題ってタブレットで送られてきて、タブレットで自分が書いたものがそのまま先生のところに行くから親は何をしているかわからないというようなことを言われました。

なんだそれかと思つて、日記とか読書感想文ぐらいは自分で書くよねと言ったら、それもタブレットで書いて出すというのは何なんだろうと思つていました。

だんだん紙媒体から離れていっていますが、自分の手で書いていくということは、一番大事なことでないかと思います。私は今までの経験として、タブレットでパッと書いたものより、紙で書いたもののほうが頭に、記憶に残っているというのがあるので、この図書館の大事さっていうのを、もっとこう再認識すべきと思えるんです。

今見ている中で、やはり子どもにとっては図書館の大切さというところがあるので、さきほど委員も言われたように、説明の中に障害者のことや高齢者のことなどについて、もっと細かく、分野分けまではいかなくとも入れ込んでいけば、もうちょっと市民の目も向いてくると思うので、私たちには関係ないから要らないとかではなくて、もっともっといいものを作っていけるように工夫ができたらと思います。

それこそ、先ほど災害のときの拠点になればという言葉もありましたが、どういうふうにしたら災害のときにどのように使えるとかということについては、広く何度も言わないと入っていかないと思います。

そういうところのPRもしながら、これが大切だから必要なんだ、もっともっとこれを早めに作ってこう、もう今すぐにも実施しようという勢いになれるように取り組んでもらいたいと思いました。

<委員>

皆様のすごく熱意あるご意見を聞かせていただいて、本当にそうだなと思いながら聞かせていただきました。

私、都市拠点の方にも子育てに関する審議会の立場から入らせていただいて、そして、さきほど委員もおっしゃいましたけれども、海南ノビノスというところにも視察に行かせていただいて、ものすごいショックを受けたというか、素晴らしいものを見せていただいたということをすごく思いました。

色々な世代の方があそこに集って、ただ単に図書館に来たということではなく、そこでしゃべりしたり、それから遊んだりできるスペースがありました。そのような立派な施設が京丹後市の人口と変わらない海南市でできているということを目の当たりにして、京丹後市にもこんなものができるかもしれないということで本当に夢を持ってこの1年間関わらせていただきました。

私はこども園で仕事をしています、関わっているのが赤ちゃんから就学前の子どもたち、そして、小学校に行った子どもたちや、子育て中のお母さんたちと毎日関わっているんですけども、時々、高齢者施設にも子どもたちと一緒にいっていただくんですけども、本当に涙を流して喜んでいただいて、元気になった、パワーをありがとうというような言葉も聞かせていただくことが多々あります。

そういう中で、本当に京丹後市の中にそういうふうに赤ちゃんから高齢者の方まで、あるいは子育てで大変なお母さんたち、あるいはお仕事をされている現役世代の方、みんなが一堂に会してというか、行きたいときにそこに行ってコミュニケーションできるような場所って本当にないなと思っているんです。

そういう中で、本当にそういう都市拠点の施設ができて、そして、みんながそこに行けば繋がりができるというか、触れ合えるというか、ほっとできるというか、本当にそんな場所ができて

欲しい。

そして、私が毎日接しているこの子どもたちが、ずっと住みたくなる夢のある京丹後市になって欲しいなど、子育て環境日本一というすばらしいことを京丹後市は掲げて色々な政策をしていただいて頑張ってもらっているんですけども、実際にそうなって欲しいなと思います。

先ほどから色々な委員の方も言われましたけれども、なかなか市民の方が、今こういう都市拠点作ろうということで進んでいるんだよということを知っておられないんじゃないかなと思います。

私はたまたま委員にならせていただいて知ることができましたけれども、色々な方と話しても、もう全然知っておられないなということを感じます。

これが否決されそうだとということで、6月議会で否決されそうになって、9月議会に向けて署名活動しているということをお話させていただいて、それで署名についても保護者の方にもちょっとお話をさせていただいたら、期間が短かったので全部の保護者の方には言えませんでしたけれども、お話しをしたすべての保護者の方が、そういった施設はぜひ整備してほしい、絶対署名しますということをおっしゃいました。だから、すごく待ってられるなということを感じました。

一方で、知っておられないんだということも感じましたので、もっともっと色々な方が本当に作って欲しいと思っていただけるように、もっともっと色々な場所でPRしていただくこと、知っていただくなんて他人事みたいなこと言ってますけど、私も含めて取り組んでいくことが必要だなと思います。

京丹後市が色々な施策を進められる中で、パブリックコメントとかされますが、どれだけの人が、私事という気になるのかな、特に高齢者の方とか子育て中の方がその気になってパソコンに向かわれるのかなという点では疑問があります。

最近、色々なところでアンケートはQRコードを使って答えてくださいますけれども、私も高齢者に入りかけているので、時間もなかなかかかります。

色々な方に賛成してもらえそうな、理解してもらえそうな都市拠点が早くできて欲しいなとすごく思っています。

<委員>

子ども未来まちづくり審議会に参加して、とてもよかったと思っています。

やはり子どものことを語ったり、未来のビジョンに希望を持つということは、まちづくりにとってはとても大事なことだなというふうに改めて痛感させていただきました。

京丹後市は旧町が1つになってできたということが経緯としてありますが、その中で1つのまちである京丹後市として一体感を見いだす場所とか空間というのが非常に大事になってくるというふうに思っております。

なおかつ、子どもたちが集って、それから高齢者も集ってということになれば、さらに京丹後市の一体感が醸し出されるなというふうに思っていますから、やはり自然と食に恵まれた京丹後市です。それにプラス、文化的、歴史的なことも含めて、文化の拠点としての京丹後市でもあるというふうに改めて思っております。

子どもたちが文化に触れる、そのことを通じて、やはり未来へ、あるいは世界を見つめていけるようなまちづくりになる。そんな拠点を、ぜひ今後とも追求していただけたらいいなと思っております。

<委員長>

予定時間を超過してるのかもしれませんが、発言させていただく時間が少しでもいただけるようなら少し発言をしたいのですがよろしいでしょうか。

今回、4つの論点が示されています。

委員の皆様から頂いたご意見にもありましたけれども、私たちは施設整備にあたって時間と労力をかけ、真摯に議論を重ねて計画を作ってきました。皆様の「ぜひ整備を進めてほしい」という想いを実現するためにも、まず頂いた論点を真摯に受け止め、それにどう対応するかを検討する必要がありますと考えています。

順番が前後しますが、論点4から見たいこうと思います。

今回否決の理由になったと思われる黒丸のポイントについて、既存施設の活用や分散整備といった可能性を検討すべきですとか、時代の流れによりニーズや状況も変化するため中期的な施設整備や段階的整備も検討すべきといった意見がございました。これに関しては申し訳ないですが、これらは今回の論点としては当てはまらないと考えています。それはなぜかといいますと、分散整備や既存施設の維持では提供できない機能を今回の整備で実現しようとしているからです。複合化によって効率化が図れるため、長期的な財政負担を低減できることも明らかです。さらに、人の流れを生み、商業・文化施設を中心とした周辺地域の活性化につながる点からも、この論点に対しては反対の立場をとるべきだと考えます。

それから、強調したい点は、京丹後市では少子高齢化が加速しており、子育て世代の流出や出生数の減少といった緊急の課題があります。将来を担う子どもや子育て世代への支援を今行っていることを、きちんと可視化すべきです。現時点で困っている方々に対し「将来整備します」と先送りにするだけでは改善になりません。図書館や子育て支援を求める声が既にある以上、対応を先送りすれば市民の信頼を損ねかねません。就学前の子育て期間は限られているため、今支援しないとその世代を失う可能性があります。意思決定は市民に明確に共有し、慎重に判断していくべきだと考えます。事務局を含め関係者の皆様にご留意いただきたいと思います。

それから論点3についてですが、検討会議でも議論しましたが、「均衡ある発展に反する」や「地域拠点整備とのバランスをとるべきだ」といった意見がありました。私はこれが逆であると考えています。均衡ある発展のためには、まず都市の中心性を形成しなければ、全体が衰退する恐れがあります。都市の中心性を明確にしてメリハリをつけることが重要であり、今回の施設整備はそのために重要な役割を果たします。同時に、機能分担によって地域間のバランスを図ることも大切です。例えば、図書館や商業施設は、一定の需要がないと継続が難しくなります。したがって、一定の需要が見込める場所に立地させる必要があり、その観点も判断材料にして頂きたいと思います。

それから、高齢者のためにというご意見もありましたけれども、近年の図書館は従来とは大き

く異なり役割が多様化しており、高齢者の交流の場としての機能を持つところも増えています。お孫さんと一緒に利用するなど多世代交流が生まれる可能性もあります。このような従来とは異なる図書館の新しい価値も踏まえてご判断頂ければと思います。もちろん、多機能な施設を整備すれば単機能よりはコストは上がりますから、コストと効果のバランスを慎重に検討する必要があります。

論点2については、これはもう丁寧にご説明し、合意形成を図るということに尽きるかと思えますので、委員のご意見にもありましたが事業のこと自体知らないという方もまだまだたくさんおられると思いますので、これは合意形成を図るために様々な手段を講じていただければと思います。

最後に論点1についてですけれども、コストが高額で将来負担が増えるというご意見がございます。イニシャルコストやランニングコストを考慮することは当然重要ですが、都市拠点に施設を整備することで周辺の活性化や波及効果（シナジー効果）が期待できます。単体の費用評価にとどまらず、波及効果を含めた総合的な検討が必要です。他の事業との関係や優先順位については市で整理していただき、特に議員の皆様にご丁寧にご説明頂ければと思います。

以上の論点はいずれも重要です。多くの方からご意見を伺い、それらを集約しつつ、整備計画を前進できればと考えているところです。

<事務局>

専門的なお立場からご意見いただきました。ありがとうございました。

時間も予定していた時間を過ぎておりますのでそろそろ閉会に移っていきたくと思います。

本日の会議では、意見の取りまとめですとか、方向性を見出していくというようなことは行いませんので、今日いただいたご意見を糧に、今後の事業の検討に生かしてまいりたいと思います。

議会からいただいたご意見についても、さらに詳細に精査をしながら、今後の検討を進めてまいりたいと思っております。

最後に、今後のスケジュールとして資料の9を配布しております。

市民向けの広聴会を、なるべくご参加いただきやすいような時間設定もしながら、10月の中旬から下旬にかけて考えていきたくと思っております。

次の審議会につきましては、11月の10日から20日頃をめぐりに開催させていただきたいと思っております。次回会議の持ち方を合同とするのか、それぞれの個別とさせていただくのかというあたりについては、各会長、委員長とも相談の上、決めさせていただければと思っておりますので、またご案内ありましたらご出席のほどよろしく願いいたします。

それでは、長時間にわたりましてありがとうございました。以上で議事のすべてを終了とさせていただきます。最後に閉会の挨拶を、教育委員会の松本教育長の方から申し上げます。

<教育長>

皆さん、長時間にわたり活発なご議論をありがとうございました。

夜分の遅い時間帯にも関わらず、出席いただきましたこと、改めてお礼申し上げます。

さて、本事業につきましては、今ご議論いただきましたように様々な観点がございまして、今

後の持続可能なまちづくりを見据えて検討する必要があることから、検討も非常に難しい事業と認識しております。

また一方で、京丹後市がより魅力的で、持続可能なまちになることを目指す思いについては、皆様共通のものであると、今回改めて認識させていただいたところでございます。

今後も、都市拠点構想や基本計画の基礎となっている課題や要望といったニーズに対して、できる限り早急にお応えすべく検討を進めて参りたいと考えております。

委員の皆様それぞれのお考えをお持ちかと思いますし、今日もしっかりとご意見をいただきましたので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

先ほど事務局からもありましたように、各審議会等については年度内にあと2回程度の開催を予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

結びに当たりまして、本事業については、さらに理解を深め、自分ごととしてとらえていただける市民の方々を少しでも増やしていきたいと考えておりますので、そういった面でも引き続き委員の皆様方のご協力を強くお願い申し上げます。閉会のごあいさつとさせていただきます。本日はどうもご苦労さまでございました。

<事務局>

それでは、以上をもちまして都市拠点公共施設整備に係る合同会議を閉会とさせていただきます。遅くまで大変お疲れ様でした。どうもありがとうございました。